

## IT21 の会（平成 20 年 5 月）第 120 回例会議事録

日時 : 2008 年 05 月 10 日(土) 13 時 30 分-14 時 50 分

場所 : 損保会館 4 階 (御茶ノ水)

出席者 : 17 名

配布資料 :

- ・ 0805-0 (社)日本技術士会 CPD 行事参加票
- ・ 0805-1 IT21 の会 KAIZEN-WG ML-KAIZEN 報告
- ・ 0805-2 HP-KAIZEN 報告 / 提案
- ・ 0805-3 システム監査学会リーフレット研究大会「今求められる経営の変革の視点とシステム監査」
- ・ 0805-4 プロジェクトチーム設置・運営規則、プロジェクトチーム設置・運営の手引き (抜粋)

**議事 :**

1. 議事および資料確認 (加納幸博氏)

2. 議事「IT21 の会 ML,HP KAIZEN ワーキンググループ報告」

2-(1). はじめに (加納幸博氏)

まずは ML の遅延対策からはじまった KAIZEN-WG であったが、その後 HP の見直しや ISP の一本化などについても検討を行った。本日はその報告をまとめて行う。

2-(2). ML (丸山成人氏)

CoreServer (ISP) にてテスト ML を構築し ML インフラ移行について検討した。

ML の運用 (投稿・配信・ユーザ管理) については特段の問題は無く、mailman での ML 運用は管理者の負担を軽減する上で有効であると思われる。ただし、いくつかのトラブルと 3/14 以降メールが配信されない致命的なトラブルが発生したため、CoreServer への ML 移行は見送ることとし、現行 ML の利用を継続することとした。

現行 ML はヘッダー情報からフィルタリングサーバで遅延が発生していることが判明したため、CyberTrading (ISP) に対し改善を要求した。フィルタリングツールの変更後は目立った遅延は発生していない。

また、料金コース A からより安価なコース B に変更を行った。

最近、現状 ML が一部のスパムフィルタでスパムと判断されエラーとなる事象が発生している。会からの重要情報は ML 以外での配信も検討が必要である。

HP と ML の ISP 統合、両委員の統合等を踏まえ引き続き検討が必要である。

#### 2-(3)．名簿管理（石田正浩氏）

従来名簿は役員用と ML 管理用の 2 種類あった。現在は 1 つにまとまっはいるが、役員のみが参照可能になっている。ML 委員で名簿データが必要な場合には、必要な項目のみ抽出して渡している。内容が入会時のものなので、最新の情報に更新する必要がある。

#### 2-(4)．HP/SNS（田中令子氏）

現行 HP を HP+SNS の形にする。HP は主として静的コンテンツ、SNS は動的コンテンツを主体とする。役員 ML のコミュニティ化や名簿管理の省力化など、事務処理の問題解決のツールとしても活用していく。また、重要なお知らせなどは IT21ML との連携し、シームレスなシステム構築を目指す。6 月例会（6 月 6 日）で新 HP + SNS を公開する。現行 HP のアカウント・パスワードは、新 HP + SNS へ引き継ぐ。

#### 2-(5)．ディスカッション（加納幸博氏）

現行の ISP も、移行検討先の ISP もサポートが最大のネック。ユーザー側で解決法を発見し指摘しても修正してくれない。

他の ISP2 社を調査したところ、ある ISP からはビジネス用の利用を勧められるが、2 万円/月程度の費用が発生する。（現状は 1.5 万円/年）

よって現行 ML は継続して運用するが ISP のサポートはいつ停止されるか解らないリスクの覚悟が必要である。

#### 以下質疑応答（Q:質問、A:回答、C:コメント）

C1)ML の安定した維持にはコストがかかる。このまま ML 中心でいくな  
らコスト増は避けられない。

Q1)サーバ側とローカル側の両方に問題が考えられるが、切り分けたか？

A1)実施し、フィルタリングサーバの問題点まで特定して解決。

C2)まとめ読みをしている人が 1 人だけいるとのことだが、それに縛られ  
ないといけないのか？ 疑問だ。

Q2)SNS のプロフィールを投入することで、名簿管理の問題も解決できると  
いう理解でよいか？

A2)その通り。

Q3)IT21 の会として責任を取らないといけない場合も出てくるがどのよう  
に担保するか？

A3)SNS は本名登録を必須とし、会員外は登録させないことを考えている。

Q4)SNS に発信した情報は ML に転送できることは分かった。逆に ML に発信  
した情報は SNS に反映されるか？

A4)反映されない。

C2)もっと、会員へのサービス向上のため、積極的に会費を投入してもよいのではないか。

Q5)ヴォイスサービスは可能か？

A5)可能。

WG の解散と SNS の立ち上げを承認して頂きたい。（加納幸博氏）

WG は自由に解散できるので、承認は不要。

SNS の立ち上げについては出席者全員の賛成により承認された。

今後の予定として6月の例会を目処に運用ルール、管理体制案を発表する。

3.システム監査と今後の展開（黒澤兵夫氏）

システム監査（SA）の観点から、リスクマネジメント（RMS）や事業継続（BCPS/BCMS）を見た場合、システム監査はマネジメントシステム監査（MSA）になっていくのではないだろうか。

さらに、サプライチェーンマネジメントでつながる企業外のシステム全体についても視野を広げていくべきである。

4.技術士会プロジェクトチーム設置運営規則の改正について（二階堂久和氏）

技術士会の PT 設置運営規則が昨年夏に変更されているので、知っておいてもらいたいことについて周知を行った。

- ・日本技術士会非会員は PT 構成メンバーの 30%未満まで
- ・日本技術士会非会員の技術士・技術士補は PT 参加後 2 年以内に日本技術士会に入会を勧める。入会のない場合、それ以後の PT 参加を認めない。

5.初回参加者の自己紹介（田中茂氏）

以上（記載者：石井利教）